

令和2年第2回新十津川町議会定例会一般質問通告表

順位 (議席番号)	質問者	質問事項	答弁者	摘要
1 (5)	小玉 博崇	<p>介護サービスの存続と包括的な支援体制整備について</p> <p>日本の高齢者数のピークは2045年と言われているが、本町の高齢者数のピークは人口ビジョンによると2020年であり、今後は高齢者の人口も減少に転じていくこととなっている。</p> <p>高齢者が住み慣れた地域で暮らすためには介護サービスが必要であり、本町でも各種介護サービスを福祉事業者が提供している。</p> <p>しかし近年、サービス事業者が減少傾向にあり収入が減少。特に、在宅サービスでは赤字に転じてしまっている状況が見られる。</p> <p>今後、高齢者の人口が減少していく中、ますます経営状況が悪化していくことが予測されると同時に、種別によってはサービスの存続自体が難しくなることも考えられる。</p> <p>このような状況下において、要介護状態になっても住み慣れた地域で暮らしていくために必要な介護サービスを町としてどのように存続させていくのか、町長の考えを伺う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 介護サービス存続の考え方 2 町が目指す地域包括システムの具体像 3 「我が事・丸ごと」の地域づくりへの考え方 	町 長	
2 (3)	進藤久美子	<p>新型コロナウイルス感染症予防対策と予算について</p> <p>新型コロナウイルスの世界的流行という危機の中、国は対策として「新型コロナウイルス感染症対応地域創生臨時交付金」を各自治体に交付しました。</p> <p>本町においても、一次配分として7619万6千円が配分されています。限られた財源の中、スピード感をもって、国から示された交付金の制度趣旨に沿って、感染予防対策、経済対策、生活支援等の施策をとられてきたことについては評価するところです。</p>	町 長	

順位 (議席番号)	質問者	質 問 事 項	答弁者	摘要
		<p>いつ終息するか予想のつかない新型コロナウイルス。これからも町独自の施策を進めていかなければならないと思います。</p> <p>そこで、次の2点について伺います。</p> <p>1 今後の新型コロナウイルス感染症予防対策などをどのように進めていくのか</p> <p>2 対策を進める上での財源の用途は</p>		